横浜市立 鶴ケ峯中学校　学校評価報告書　（平成28～30年度）

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	ICTや学校図書館の資料などの視覚的教材の活用や、体験的活動による授業づくりを通して、興味関心を引き出し、授業の理解を深める授業づくりを行います。誰もが安心して参加できるユニバーサルデザインの視点をもった授業展開を行い、資料提示や発問、授業の振り返りの仕方を工夫し、生徒の発言や記述による表現力を養います。	補習、小テスト、反復学習、ねらいを明確にした授業などにより、生徒の知識・技能の定着につながっていると考えられます。また、授業の導入に、ICTを活用した視覚的な教材提示により、授業生徒の興味関心を高める効果があると考えられます。ユニバーサルデザイン授業の展開については今後校内研修を深める課題です。	B
豊かな心	・道徳の授業内容の工夫・充実を図り、人権作文に全校で取り組みます。 ・生徒会を中心に「あいさつ運動」やポランティア活動に参加します。 ・学級だけでなく様々な母体から発生する諸活動の中で、誰もが主人公になる場面をつくっていきます。	・道徳では、視聴覚教材やグループワークなどを取り入れ業内容を工夫しました。また、人権作文では実生活に即した内容も見られるようになってきました。 ・あいさつ運動やボランティア活動への呼びかけはより活性化していきたい。 ・職員それぞれが一年間を通じ色々な場面で生徒の活躍の場を設定してきました。	B
健やかな体	・保健だより等を通じ規則正しい生活習慣を送ることの大切さを呼びかけます。 ・昼休みを利用した外遊びを推進します。 ・体育の授業では毎時間、準備運動の中で、縄跳びや馬跳び股くぐりとインターバル走をメニューに入れ、体力向上を図ります。	・学校保健委員会では歯科検診の結果から小学校栄養教諭の協力を得て、歯肉の健康と栄養について話し合うことができました。 ・体育の授業の準備運動は年間を通して実施することができ、単元によっては補強運動の内容を変更するなどして体力向上に向けて実践することができました。	B
教育課程	・3学期制を取り入れ、年間の教育課程計画を検証します。 ・学ぶ過程（「課題を持つ」「見通しを持つ」「筋道を立てて考える」「追求する」「創意工夫する」「表す」「振り返る」）を大切にし、保護者・地域に授業公開をします。	・3学期制の実施を受けて、年間の教育課程の検証を行い、来年度の計画に活かしました。 ・学ぶ過程（「課題を持つ」「見通しを持つ」「筋道を立てて考える」「追及する」「創意工夫する」「表す」「振り返る」を意識して教育活動を行い、保護者・地域に授業公開をしました。	B
児童・生徒指導	・日常的に生徒との会話の機会や場面を増やす努力をするとともに、年間計画に教育相談週間を設定し、生徒が抱える諸問題の予防、早期発見と対応に努めます。 ・指導体制の統一、不登校、いじめ等をテーマに校内研修を計画的に実施し、組織的に生徒指導を行えるよう共通理解を図ります。	・担任はもとより、全職員で授業前後の休み時間での声掛け等、生徒との関係つくりに努めました。また、年3回の教育相談週間を担任が積極的に活用し、生徒の抱える諸問題に対応しました。 ・4月の指導統一のための研修会をはじめ、年数回の研修を実施し、教師の意識向上と共通理解に努めました。	B
特別支援教育	・特別支援校内委員会で、定期的に特別な支援が必要な生徒についての実態を共有し、手立てを検討するとともに、すべての教員が情報共有できるような体制づくりを行います。 ・少人数授業やTT、特別支援教室、はまっ子学習教室の活用を通して、学習面でのサポートを充実させ、学習の遅れによる不登校生徒の防止に努めます。	・校内委員会で生徒の定期的な情報交換はできたものの、教員全体で共有する場を定期的に増やしていくのが課題です。 ・少人数授業、TT、特別支援教室という授業スタイルもきめこまかな指導につながり、「授業がわかった」生徒を増やしている要因であると考えられます。はまっ子学習教室の運営を早期に行うことが課題です。	B
地域連携	・生徒会の活動と連携してあいさつ運動やボランティア活動、小学校・地域行事に積極的に参加し、地域との交流を深めます。 ・関係諸機関と連携して各種教育講演会を実施し、生徒の健全育成を図ります。 ・学区の小学校、家庭、地域と、定期的に情報交換を行います。	・地域の運動会や清掃活動、小学校の行事に参加し、交流を深めました。 ・警察官や保護司を講師に招き、非行防止教室や薬物乱用防止教室等の教育講演会を行いました。 ・年2回の学校・家庭・地域連携事業実行委員会を実施し、情報交換を行うとともに、交流を深めました。	B
人材育成・組織運営	・メンターチームとしての活動日を学校行事予定表の中に設定し、計画的に活動できる環境を整備します。 ・研修研究部と連携し、校内研修において、人材育成の視点を意識した研修運営をします。	・メンターチーム協議会を各学期に1日設定しました。初任5年目までの職員が各自で設定した課題や取組を振り返り、主幹教諭と管理職が助言し、次の課題を設定するという流れを整備しました。 ・中堅職員をリーダーとした経験の浅い職員の育成を図れるよう、人材育成システムを整備することが今後の課題です。	B

ブロック内相互評価後の気付き	・2回のブロック全体交流会を行いました。1回目は不動丸スタンダードと鶴中生徒心得をもとに、小中の学校生活について共有を図りました。2回目は教科ごとに学力向上に向けて今年度取り組んだ内容と成果について協議しました。教科ごとに「つけたい力」の共通理解を深めることができたが、現在抱えている課題をどのように解決していくかについて、さらに協議が必要だと感じました。 ・ブロック研究授業は自尊感情を高める指導の在り方を研究テーマに小学校で行いました。一人ひとりの人権が尊重される授業をめざして授業改善を進めていきたいと思います。
学校関係者評価	・学校全体で大変努力しているのがよく伝わってきます。体育祭や鶴中祭の様子から、仲間と協力したり、一生懸命応援したりする姿が見られ、安心しています。今年度の自己反省を踏まえ、より良い学校づくりに努めてください。 ・地域行事に参加し、準備から片付けまでよくやってくれています。地域は学校から元気をもらっています。 ・規範意識の向上をめざすために、地域と保護者がしっかり連携して、学校に協力していきたいと思います。

学校経営中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を掲げ、重点取組分野の目標の実現に向けて、全職員で歩みだしました。各分野で設定した具体的取組に対し、おおむね目標達成することができました。今年度の取組をさらに充実できるよう努力していきます。 ・授業力向上について、全職員がわかりやすい授業を目指して授業改善に取り組むよう校内研修の充実を図っていきたいと思います。 ・若い職員の割合が増えています。中堅職員、ベテラン職員がそれぞれ担当するチームの中で若い職員を育てていけるよう人材育成を意識した学校運営を図っていきます。

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	視聴覚教材の活用やアクティブラーニングによるグループワーク、体験的活動を通して、生徒の学習に対する興味関心を高める授業展開をします。また、誰もが安心して参加できるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を行い、あらゆる生徒がいきいきと積極的に授業に参加できる工夫をしていきます。	「視聴覚的な教材の活用」・「考えたくなる教材の提示」・「対話的な学びや発表、アクティブラーニング」を通して生徒の興味関心を高めることができたと考えられます。「学習の振り返り・復習」「明確な目標の提示」等によりわかる授業づくりを心がけましたが、ユニバーサルデザイン授業の構築にはまだ課題が残ります。	B
豊かな心	道徳の授業内容を工夫して物事を「自分ごと」としてとらえられるようにし、夏休みの人権作文にも全校で取り組みます。また、修学旅行に向け平和学習に継続的に取り組みます。日常的には、「あいさつ」があふれる学校をめざし、生徒がそれぞれに所属する場での自尊感情が持てるように取り組みを工夫します。	・道徳では、色々な形態の教材を取り入れ、自分自身を顧みるよう工夫しました。夏休みの人権作文では、自分の内面に即した内容も見られるようになりました。 ・あいさつ運動やボランティア活動は、より定着するよう働きかけるのが課題です。 ・色々な立場で自尊感情が持てるように職員が関わってきました。	B
健やかな体	・規則正しい生活習慣が身につくように、保健室からたよりや掲示物を通じて発信します。 ・新体力テストの結果を基に体力向上に向けて、生徒一人一人に目標を持たせます。また授業前の準備運動を工夫し、縄跳びや馬跳び股くぐり、インターバル走をメニューに入れ、体力向上に努めます。	・学校保健委員会では、「理想的な朝ごはん」について話し合い、栄養教諭のアドバイスを受け、朝ごはんの大切さを知ることができました。 ・体育の授業の準備運動は、年間を通して実施することができ、少しずつではあるが、体力向上・技能向上に繋がってきていると感じます。	B
教育課程	・3学期制実施の検証を受けて、教育活動全体の充実を図るために、その精選を行います。 ・昨年度に引き続き、学ぶ過程（「課題を持つ」「見通しを持つ」「筋道を立てて考える」「追求する」「創意工夫する」「表す」「振り返る」）を大切にし、保護者・地域に授業公開をします。	・学校全体の組織が効率的に機能できるよう、学校運営組織の見直しを行いました。 ・宿泊行事の3年間の反省をもとに、その目的と在り方について確認検討を行いました。特に宿泊オリエンテーションについて、目的に合った活動場所を再検討しました。 ・学ぶ過程を意識して教育活動を行い、保護者・地域に授業公開をしました。	B
児童・生徒指導	・休み時間等も使い、日常的に生徒との会話の機会や場面を増やし、関係つくりに努める、年間計画に教育相談を設定し、生徒が抱える諸問題の予防、早期発見に努めます。 ・指導体制の統一、SNS等の使用、発達障害等をテーマに校内研修を計画的に実施し、組織的に指導を行えるよう共通理解を図ります。	・教育相談週間については例年以上に時間設定をしてもらい、丁寧に生徒との面談を行うことができました。また、生徒との日常的な関係つくりもスムーズに行われてきました。 ・年数回の研修を通して教師の意識向上と共通理解は確実に高まったと思いますが、日常の、生徒指導においての連絡を徹底することが課題です。	B
特別支援教育	・学年会における特別な支援が必要な生徒に関する情報交換を密にし、情報の共有量を増やします。また職員会議において、生徒に関する支援・手立ての方法を発信します。 ・はまっ子学習教室を定期的に開催し、学習相談会を増加することで、学習の遅れやつまずきを感じている生徒に対する支援体制を整えます。	・特別支援担当の教員が中心となって、支援が必要な生徒の情報を継時的に記録し、校内委員会で共有することができました。職員会議での情報発信も行えました。 ・はまっ子学習教室、学習相談会を月に各1回のペースで開催したが、参加人数が少なかったので、広報活動、啓発活動の充実が課題です。	B
地域連携	・ボランティア活動や小学校・地域行事にさらに積極的に参加することで、地域との交流を深めるとともに地域に貢献しようとする態度を育てます。 ・関係諸機関と連携して、生徒の実情や課題に合わせた各種教育講演会を企画・実施し、生徒の健全育成を図ります。 ・昨年度に引き続き、学区の小学校、家庭、地域と、定期的に情報交換を行います。	・地域や小学校の行事に参加し、交流を深めました。ボランティア活動への参加生徒が増え、生徒の意識が向上してきました。 ・警察官や保護司を講師に招くことで、地域とのつながりを意識した教育講演会を行うことができました。 ・年2回の学校・家庭・地域連携事業実行委員会で、情報交換を行いました。	B
人材育成・組織運営	・メンターチームとしての活動を充実させるため、初任5年目までの職員が中心となって、自主的・計画的に研修できる環境を整えます。 ・研修研究部と連携することにより、校内研修のあらゆる場面で人材育成を意識し、中堅職員がリーダーとなって組織運営ができるようにします。	・メンターチーム協議会を各学期に1日設定しました。初任5年目までの職員が各自で設定した課題や取組を振り返り、主幹教諭と管理職が助言し、新たな課題を設定しました。 ・校内研修をはじめOJTによって人材育成を意識することができました。 ・中堅職員がリーダーとなれる環境づくりを整備することが課題です。	B
いじめへの対応	・日頃から生徒と積極的なコミュニケーションを図るとともに、定期的な教育相談週間の設定により、生徒との教育相談活動を充実させることで、生徒に寄り添い、相談しやすい関係・環境づくりに努めます。 ・週1回のいじめ防止対策委員会（情報交換会）により、いじめの未然防止、早期発見に努める。 ・関係諸機関と連携して教育講演会等を実施し、いじめ防止に関する正しい知識を身につけるとともにモラルの醸成に努める。	・定期的な教育相談や生活アンケートの実施により、生徒が相談しやすい関係・環境づくりをしました。 ・週1回、全学年の情報交換を行い、いじめの未然防止、早期発見に努めました。また、事案の追跡調査と継続的な支援を考えました。 ・規範意識の向上を図り、いじめの起きにくい風土づくりのため、関係諸機関と連携して教育講演会等を実施しました。	B

ブロック内相互評価後の気付き	・2回のブロック全体交流会を行いました。今年度は授業力向上・学力向上を目指し、教科ごとに取り組んでいる内容と成果について協議しました。1回目で現在抱えている課題の解決について協議し、2回目でそれぞれの学校で行った実践の発表し、さらなる課題について話合いをしました。 ・中学校で美術・社会・国語・道徳・個別支援の研究授業・研究協議を行い、小中で活発に意見交換することで、それぞれの違いを理解した上で授業の展開の仕方や工夫につなげています。
学校関係者評価	・評価のための資料がよくまとめられており、分かりやすいものでした。先生方の苦労が感じられます。 ・地域行事への協力が積極的に行われており、地域としては非常に助かっています。祭礼などのパトロールに関しては、先生方がすべて責任を持つのではなく、必要に応じて地域や主催者にも声をかけていただき、先生方の負担を少しでも減らせるようにしていただきたいと思います。 ・部活動に関しては、子どもたちの健康面や、先生方の負担の面で心配です。休養日の設定や外部への委託などにより、状況が改善されていくことを願っています。

学校経営中期取組目標振り返り	・新たな学校経営中期目標を設定してから2年目ということもあり、それぞれの項目に対してさらに充実した取組ができ、おおむね目標を達成することができました。 ・授業力向上について、アクティブラーニングなどの新たな指導方法も取り入れて「分かる授業」を全職員で目指しました。しかし、授業の補習や特別支援なども含めて、生徒の学力向上に向けてさらに工夫が必要です。 ・地域連携では、地域の方から高い評価をいただきました。今後も引き続き継続するとともに、職員の負担軽減についても検討していく必要があります。

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	・誰もが安心して参加できるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を行い、あらゆる生徒がいきいきと積極的に授業に参加できる工夫をしていきます。 ・基礎学力の向上を図るために、定期的な学力チェックや学習のつまずきに対する支援体制を構築します。	・各教科で、具体的な指示や視覚的に理解しやすい教材の工夫、対話的な活動を取り入れることで、多くの生徒が主体的に生き生きと授業に参加する姿が見られるようになりました。 ・定期的な小テストの実施は効果的でした。少人数指導や学習ボランティアによるTT授業など効果的ですが、すべての授業で取り組むことが難しいのは課題です。	B
豊かな心	・道徳を「自分ごと」として取り組めるような授業展開を行います。 ・人権作文に全校で取り組みます。 ・国際理解、平和学習、福祉・障碍者への理解について取り組み人権講演会を行います。 ・日常生活の中で、誰もが主人公になる場面設定をし、自尊感情を育てていきます。	・道徳の授業では、「自分ごと」として捉えられる教材を選択し、意見交流を重視した授業展開に努めました。 ・国際理解で扱った「ハンナのカバン」は、共感が多く、今後も継続します。 ・日常での誰もが主人公になれる場面設定は、全職員で今後も取り組みます。	B
健やかな体	・新体力テストの結果を基に体力向上に向けて、授業前の準備運動を工夫し、縄跳びや馬跳び股下くぐり、インターバル走を取り組み、体力向上に努めます。また一人一人に目標を持たせます。 ・自分の睡眠・食事など生活面の現状を知り、改善点があれば解決できるように、学校保健委員会等で働きかけます。	・保健体育の授業では、年間を通して準備運動の工夫を継続し、また、振返りを重視し、生徒各自の取組に応じた目標設定をするよう働きかけ、体力向上・技能向上に繋げることができました。 ・保健美化委員会において食事・睡眠などを含めた生活習慣に関する目標を毎月設定し、生徒たちへの意識喚起に努めました。	B
教育課程	・学校教育目標の「自ら学ぶ」「共に生きる」「健やかな体をつくる」の具現化を図るため、学ぶ過程を意識して教育活動を行います。 ・開かれた学校づくりを目指して、保護者・地域に授業公開をします。 ・学校運営組織の改編を受け、より効率的な組織について検証を行います。	・学ぶ過程を意識しました。また、学習指導要領の改訂に合わせて、保護者、地域の声を取り入れ、学校教育目標の見直しを行いました。 ・開かれた学校作りを目指して、授業公開を行いました。それぞれの場面で保護者の意見を集約し、教育活動に活かしました。 ・学校運営組織の改編を受けての問題点等の検討を行いました。	B
児童・生徒指導	・休み時間等も含め、日常的に生徒との会話の機会や接する場面を増やし、関係作りに努めます。年間計画に教育相談を設定し、生徒が抱える諸問題の予防、早期発見に努めます。 ・指導体制の統一、SNS等の使用、発達障害等をテーマに校内研修を計画的に実施し、組織的に指導を行えるよう共通理解を図ります。また、そのために職員間の連絡を密に取ります。	・より多くの時間を生徒と接する時間に割くことができました。教育相談週間においても、各担任が時間の工夫をしながら丁寧に生徒との面談を行いました。 ・職員研修を通して、教員の意識向上と職員相互の共通理解は確実に高まりました。落ち着いた状況に安心することなく、意識を高く持ち続けることが課題です。	B
特別支援教育	・はまっ子学習教室を定期的に開催し、学習相談会を増加することで、学習の遅れやつまずきを感じている生徒に対する支援体制を整えます。また、家庭への広報活動、職員への啓発活動を充実させることで、学校家庭連携、職員間連携を強化し、学習特別支援を活性化させます。	・昨年度に比べて、はまっ子教室を原則週1回、学習相談会を月1回実施することで、学習の遅れやつまづきを感じている生徒への支援体制は整いました。放課後の支援になってしまうことで、部活動との兼ね合いなどから、時期によっては参加することが難しい生徒も多くいたことが課題です。	B
地域連携	・小学校や地域の行事に参加することで、地域に貢献しようとする態度を育てることで、地域に生活する自覚と責任がもてるようにします。 ・関係諸機関による講演会の企画・実施や、生活および学習の支援を連携して行うなど、さらなる連携の強化を図ります。 ・学区の小学校、家庭、地域と、定期的に情報交換を行います。	・地域行事へ積極的に参加したり、学区の小学校の運動会に運営補助として参加したりするなど、地域に貢献しようとする態度が育っています。 ・交通安全教室や非行防止教室など警察との連携を中心とした講演会を行ったり、区役所の学習支援・生活支援事業を活用したりするなど、連携を深めることができました。	A
人材育成・組織運営	・初任5年目までの職員が参加するメンターチームとしての研修を各学期に設定し、研修研究部が中心となって企画・運営します。 ・学校運営のあらゆる場面で人材育成を意識し、中堅職員がリーダーとなって活動ができるように工夫します。	・今年度より新しい学校運営組織により、リーダーとなる職員を中心としてより円滑な取組ができました。若手職員と中堅職員がコミュニケーションをとる機会が多くなり、人材育成を意識することができました。	B
いじめへの対応	・定期的な教育相談週間を設定するとともに、生徒理解に関する職員研修を行うことで、相談活動の充実に努めます。 ・いじめ事案及びいじめの疑いがある事案についての情報交換を定期的に行うことで、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に努めます。 ・関係諸機関と連携して講演会等を実施し、いじめ防止に関する正しい知識を身につけるとともにモラルの醸成に努めます。	・アンケートの実施及び調査結果の分析と情報共有を行うことで、生徒の実態把握に努めるとともに充実した教育相談活動ができました。 ・いじめ防止対策委員会の議事録を全職員で情報共有し、いじめの疑いがある事案も含めてよりきめ細やかな見守りを行うことができ、未然防止、早期発見、早期解決につなげることができました。	A

ブロック内相互評価後の気付き	・「授業力向上」を重点化し、相互の授業参観と研究協議を行いました。互いの授業を参観することにより、小中9年間を見通した指導を意識することができました。 ・小中の職員が合同で「特別活動」をテーマとして、研修を行いました。小学校視点での講演でしたが、義務教育の土台となる6年間での指導を知ることにより、中学校3年間での指導に活かすことができました。 ・9年間で育てたい児童生徒の「資質・能力」について、イメージシートの作成を行いました。小中一貫で育てたい資質や能力を可視化することで、見通しをもった指導につなげています。
学校関係者評価	・行事を中心に、生徒が団結している様子が感じられます。クラス対抗によって目標が定まっており、盛り上がる工夫もされていて、保護者や地域からの評判も良かったです。 ・いじめへの対応では社会的に問題となっている中で、頻繁な情報交換などの未然防止・早期解決の体制ができており、きめ細やかな見守りができています。 ・働き方改革が話題になる中で、教員の負担が心配です。地域行事に中学生が参加してくれるととても助かりますが、教員が引率する必要性について地域でも考えます。部活動についても、教員の負担が減るように地域としても協力します。

学校経営中期取組目標振り返り	・学校として落ち着いた雰囲気の中、各教科・領域が学力向上アクションプランのもとで授業力向上に努めました。生徒一人ひとりの学力を考慮した、誰もが生き生きと安心して学べるユニバーサルな視点を取り入れた授業づくりを目指しました。 ・地域連携については、地域の方からも高い評価を得ることができるようになり、警察や区役所との連携も深めることができました。 ・いじめへの対応については、アンケートの実施や情報共有など、いじめ防止対策委員会の取組が機能し、未然防止、早期発見、早期解決につなげることができました。